



防災だより

社会福祉法人

八重瀬町社会福祉協議会

八重瀬町字東風平1318-1

電話 : 998-4000

ファクス : 998-8999

社協HP

<http://www.yaeseshakyo.com/index.html>

～ 地域福祉等推進特別支援事業 ～

さいがい つよ やえせちょう めざ

災害に強い八重瀬町を目指して！

平成26年度 港川総合避難訓練



平成23年の東日本大震災や、今年度8月に発災した広島県土砂災害、9月の御嶽山火山噴火、11月の長野県北部地震、また、7月には沖縄県で全国初となった台風に関する特別警報が出された台風8号による記録的な大雨・強風での災害など、全国各地で大規模な災害が多発しています。災害から自分の身や大切な家族、近隣の人たちを守るためには、一人ひとりが自らの身を守る「自助」とともに、地域で助け合う「共助」が欠かせません。

そこで、本避難訓練は、地域住民の防災意識の啓発や、災害時要援護者の見守り支援体制を推進し、災害にも強い地域づくりを目的に開催しました。

平成26年度 港川総合避難訓練の開催

日 時：平成27年3月8日（日）午前9時～

場 所：港川公民館

対象者：港川住民

内 容：①避難訓練 ②安否確認訓練 ③応急救護
④消火訓練 ⑤防災講話・応援協定シミュレーション
⑥炊き出し試食



訓練開始前にあいさつをする
八重瀬町社会福祉協議会 神谷 榮助 会長



港川対策本部の立ち上げ宣言をする
港川区長 金城 正和 氏



参加していただいた港川役員の皆さん。



避難呼びかけを聞き、公民館へ避難してくる住民。



名簿をもとに避難してきた住民の安否確認を行う。



避難してきた住民へ、ケガや気分不良がないか声かけする救護班。



倒壊した家屋でケガ人が出たと想定した、負傷者の搬送訓練。



足を骨折していると想定し、身近にあるカサやスカーフを使った応急手当のシミュレーション。



訓練用の水消火器を使った消火訓練。



訓練終了後の防災講話を聴く、住民のみなさん。



災害時応援協定シミュレーション
(八重瀬町社会福祉協議会⇔県社会福祉協議会⇔南部地区市町村社会福祉協議会)



ボランティア派遣に向けてのニーズ把握シミュレーション



八重瀬町赤十字奉仕団の協力による炊き出し。奉仕団のみなさん、ありがとうございました。



炊き出しの説明を行う、八重瀬町赤十字奉仕団委員長 伊集 ヒデ子 氏



向陽高校の生徒さんもボランティアとして参加してくれました。災害時には向陽高校も避難所として指定されているので、もし災害が起きて住民が避難してきた際にはボランティアとして活躍してくれることを期待しています！

「港川総合避難訓練」アンケート集計結果より

意見・感想

- 30代 社協間の連絡方法の自演は必要だったのか？それよりは、住民と役場との連結はどのようにしていくとかのほうが良かった。応急処置の時、見えづらかったので、台の上でやってほしかった。今回、準備してくれた方々、お疲れさまでした。ありがとうございました。
- 50代 社協のみなさま、お疲れさまでした。シミュレーション、講話が大変勉強になりました。早速、家具等の転倒防止をやります。
- 50代 4年前の大きい地震を目の当たりにし、他人事ではないと恐怖感を持った。ただ、子供の頃から地震はこない、安全な沖縄だと信じていたので知識がなく、避難訓練に参加して知識を付けたいと思いました。早速、非常食も用意します。今回は大変勉強になりました。ありがとうございました。
- 60代 消火器の売っている場所が分からない。カレー（炊き出し）は美味しかったが、ご飯が硬かった。今回のシミュレーションを見たり聞いたりして、動きが分かった。非常用持ち出し品が十分ではないので、少しずつ揃えたいと思います。
- 60代 初めての港川だけの訓練で、たくさんの参加者がいて良かったです。みんな関心があると分かって良かったです。
- 60代 サイレンを流した後すぐに避難訓練の放送をしてほしい。今回は練習があるということを知っていたのでサイレンだけで行動したが、知らない人は行動するのが遅くなると思う。

平成26年度 社会福祉会館(本所)・具志頭老人福祉センター(支所)避難訓練の開催

目的：不時の災害に際し、会館利用者・センター利用者並びに社協職員等の安否確認、早期発見、避難誘導、通報連絡、初期消火等の技術を習得し、災害が発災した際に迅速かつ早急に対応し、被害を最小限に食い止めることを目的に開催しました。



視覚障がいの方を避難誘導する利用者

日時：平成26年5月29日(木) 午後2時30分～

場所：八重瀬町社会福祉会館(本所)

参加者：社協本所職員、生きがいデイサービス利用者及び職員、野の花作業所利用者及び職員、福祉会館利用者(身協三味線サークルなど)

内容：①避難誘導 ②非常通報 ③非常放送 ④火気点検
⑤最終確認 ⑥安否確認 ⑦非常時の持ち出し
⑧消火訓練

日時：平成26年6月10日(火) 午後2時30分～

場所：具志頭老人福祉センター(支所)

参加者：社協支所職員、センター利用者(カラケサークルなど)

内容：①避難誘導 ②非常通報 ③非常放送 ④火気点検
⑤最終確認 ⑥安否確認 ⑦消火訓練



訓練用の水消火器を使った消火訓練

平成26年度 中・高校生防災研修会の開催

目的：災害・防災について学ぶことと、災害時の弱者とされる障がい者の立場になり、いざ災害が発災した時に「何に困っているのか」、「何の手助けをして欲しいのか」を考えることを機会に、災害時のボランティア育成を目的に開催しました。

日時：平成26年8月5日(火) 午前10時～

場所：八重瀬町社会福祉会館

参加者：町内の中学校・高校の生徒

内容：①ボランティアについて
②講話「東日本大震災あの時・・・そして現在」
③アイマスク体験
視覚障がい者の立場になり、災害が起きた時の避難訓練を試みよう！！
④防災クイズ&クロスロードゲーム



福島県出身の大橋文之さんと藤巻衛司さんに、震災当時の状況、現在の福島県についてお話していただきました。



アイマスクをつけての避難訓練シミュレーション



「普段からの声かけや地域との交流が大切だと思った」など、色々な意見が出ました。

平成26年度 第2回やえせ長寿学園防災講話の開催



日 時：平成26年8月22日（金）午後2時～

場 所：八重瀬町社会福祉会館

参加者：町老連やえせ長寿学園会員

内 容：講話「防災意識向上を目指して」



防災対策の重要性を説明する社協担当職員

平成26年度 集いの広場・お話しサロンてい～らぶい防災勉強会の開催

目 的：近年、全国各地で自然災害が多発しているなか、犠牲者の多くが高齢者や障がい者となっています。いざ災害に遭遇した時に「自分たちに何ができるか」「日頃からできる備えとは何か」を学び、防災意識を高めることを目的に開催しました。

日 時：平成26年9月16日（火）午後2時～

場 所：具志頭老人福祉センター会議室

参加者：集いの広場・お話しサロンてい～らぶい利用者

内 容：講話「災害に強い地域を目指して」

座談会「普段からの備えについて」

「避難場所、避難経路について」



座談会では、「避難経路を再確認してみる」など、色々な意見が出ました。

平成26年度 応急手当講習会の開催

目 的：職員が業務中などに緊急を要する場面に遭遇したときの対応が、迅速かつ的確に行えることを目的に開催しました。

日 時：平成26年11月18日（火）、11月19日（水）午後2時～

場 所：八重瀬町社会福祉会館

対象者：八重瀬町社会福祉協議会職員

内 容：①AED操作 ②心肺蘇生法 ③応急手当の基礎知識 ④防災講話



心肺蘇生・救急車要請・AED操作など、緊急を要する場面に遭遇した時には、その場に居合わせた人での連携プレーが必要です。



福島県出身の大橋文之さんに、現在の放射能の拡散状況などについてお話していただきました。

平成26年度 新城親子防災教室の開催

目的：災害から自分の身や大切な家族、近隣の人たちを守るためには、一人ひとりが自らの身を守る「自助」や地域で助け合う「共助」が欠かせません。

そこで本防災教室は、親子で防災・減災について考え、各家庭や地域で防災意識を高めていくことを目的に開催しました。

日時：平成26年10月26日（日）午前9時～

場所：新城公民館

対象者：防災について関心のある親子、地域住民など

内容：①講話「災害に強い地域を目指して」

②ロープ結び ③火のおこし方 ④身近にある物で担架作り

⑤応急手当 ⑥消火訓練 ⑦炊き出し試食



ボーイスカウト豊見城第一団の金城宜嗣氏を講師に招き、ネッカチーフを使った応急手当、ロープの結び方などを学びました。



訓練用の水消火器を使った消火訓練



毛布を担架代わりにしたケガ人の搬送



八重瀬町赤十字奉仕団の協力による炊き出し



牛乳パック等を使った火おこし体験

家の中の安全対策

東日本大震災の後、非常用持ち出し袋を準備した人が多いと聞きますが、家の中をできるだけ安全な場所にしておくことも同じくらい重要です。阪神淡路大震災では、亡くなられた方の10%相当、約600人が室内家具の転倒による圧死でした。災害は、いつ、どこで起こるか分かりません。自分や大切な家族を守るために、“いつか”ではなく“今日”からコツコツと安全対策を始めてみませんか？

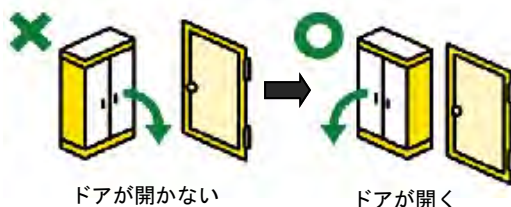
1. 寝具は安全な位置に

布団やベッドは本棚やタンスが倒れてきたり、照明が落ちてこない位置に。ドアの前に倒れて避難経路をふさがないようにも注意しましょう。避難時にすぐ使用する懐中電灯、スリッパは足元か枕元など、暗闇でも分かる位置に置いておきましょう。



2. 家具の転倒防止&食器の飛び出し防止

家具は大きさにかかわらず全て固定すること。壁に貼り付けるタイプの粘着ジェルマットや、ポール式とストッパー式、マット式の組み合わせなら、家具や壁に穴を開けずに固定することができます。食器棚などの開き戸はフックで固定し、収納してある食器の下には滑り止めシートを敷くと良いでしょう。



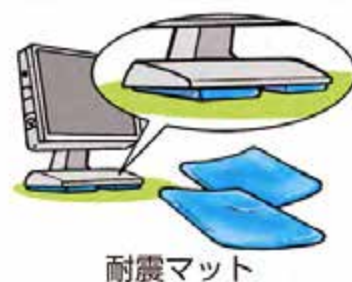
3. テレビやパソコン、電子レンジなども固定

室内にある全ての家電製品も耐震ジェルマットなどを利用してしっかり固定する。



4. 暗闇に道しるべを

停電しても安全に避難できるように蓄光テープを階段や段差、ドアに付ける。停電時に点灯する足元灯をコンセントにさしておけば、懐中電灯の代わりにもなります。



～編集後記～

平成24年度から「災害にも強い地域づくり」を目的に、地域で避難訓練を開催しています。今年度で3回目となりますが、毎回課題となるのが10代～40代の若い世代や子供たちの参加が少ないことです。東日本大震災での「釜石の奇跡」では、繰り返し防災教育を行っていたため子供たちの防災意識が高まり、率先して避難した中学生の後を追って小学生も避難したために、釜石市の小中学生のほとんどが津波から逃れ無事だったのです。沖縄でも大きな地震や津波は起こると言われています。東日本大震災や阪神淡路大震災を教訓に地域の避難訓練などに参加し、家具の固定や配置の見直し、家族で避難場所や避難ルートについて話し合うなどし、日頃から家庭や地域で防災・減災に取り組んでほしいと思います。

社協では、今後も避難訓練などを開催し、地域住民とともに災害に強い地域を目指してまいります。